

# 令和7年度 学校経営改革方針

鈴鹿市立庄内小学校

## 1. めざす学校像

### 【鈴峰中校区統一キャッチコピー】

『選ばれる鈴峰中学校区』をめざして

- ①「子どもたちに選ばれる鈴峰中学校区」→学力保障
- ②「先生たちに選ばれる鈴峰中学校区」→授業力向上と充実した研修による資質向上
- ③「大人になった子どもたちが一生住んでみたいと思える鈴峰中学校区」

### 【学校教育目標】 ゆりのき児童の育成

夢をもち、理想に向かって、伸びやかに、毅然と進む、ゆりのきっ子の育成

### 【めざす学校像】 「今日も来て良かったな、明日も来たいな」 と思える「ウェルビーイング」が高まる学校

- ・児童がまわりの人・もの・ことを大切にし、安心して楽しく過ごせる  
「通いたくなる学校」
- ・保護者・地域に開かれており、安心して子どもを任せることのできる  
「通わせたい学校」
- ・教職員それぞれが安心して力を発揮し、働きがいを感じられる  
「勤めたい学校」

### 【めざす子ども像】 知・徳・体のバランスのとれた ゆりのきっ子

- ゆ 夢に向かって努力する子（徳）
- り 理想を追い、生きる力を身につけた子（知）
- の 伸びやかに育つ子（体：自分や他の人の生命、健康、安全を大切にする子）
- き 毅然と進む子（徳：社会や人との繋がりを大切にしたい思いやりのある子）

## 2. 基本方針

### （1）地域連携と学校評価を生かした開かれた学校経営の推進 【地域連携】

- ・家庭・地域がともに児童の成長を支える教育活動づくりの推進と学校運営協議会の協働型の活動に向けた取組の推進

### （2）「ゆりのきっ子」の育成

- （ゆ）→夢に向かって自己肯定感を高めながら意欲的に活動する子の育成【地域連携】【非認知能力】  
キャリア教育の推進（出前授業・地域との連携）
- （り）→（研修部）確かな学力と基本的な生活習慣を身につけた子の育成【学力向上×ICT活用】
  - ・研修主題：自分の考えをもち、進んで伝え合う子の育成  
～相手意識・目的意識を持った主体的な伝え合いをめざして（国語科）～
  - ・基礎学力の定着や、主体的・対話的で協働的な学びを意識しICTを活用した授業改善
  - ・保幼や校区小中と交流・連携した鈴峰中学校区での教育活動の推進
  - ・不登校児童をうまな児童支援や学習環境の改善・整備

(の)→ (生指部)健全な体と心の育成(保健・生活・安全安心の指導などの推進)【長欠対策】

・生徒指導目標:児童が安心して安全に楽しく過ごせる学校集団をめざす。

・主体的に心身の健康を育むことのできる体力向上の取組の推進

(き)→ (人権部)社会や人との繋がりを大切にしたい思いやりのある子の育成

(人権教育・特別支援教育、道徳教育の推進)

【長欠対策】【非認知能力】

・人権教育目標:一人ひとり違いを認め合い、互いを大切にしたい仲間づくり

・社会との繋がりを自覚し、規範意識のある児童の育成

・自他の人権を大切にしたい思いやりの心を育てる教育活動の推進

### (3) 職場環境の改善、教職員の総勤務時間縮減に向けた取組の推進

・業務の精選・効率化や定時退校と平日における年休取得の推進

## 3. 具体的な方策

### (1) 地域連携と学校評価を生かした開かれた学校経営の推進

・学校運営協議会を中心に「子どもが楽しく安心して学べる環境づくり」など、地域と連携した学校経営を行い、地域とともにある協働型コミュニティ・スクールを推進する。また、地域づくり協議会・地域コーディネーター・地区市民センター・地域各自治会と随時相談しながら学習活動や学校づくりに取り組む。

(学校運営協議会年6回・庄内地域づくり協議会代表者会議年10回)

・保護者アンケート、児童アンケートの分析結果や対策、それらについての学校運営協議会の意見等を地域・保護者に発信し取組のねらい等について理解を求めていく。

「学校は懇談会や通信などで教育方針や教育活動・児童の様子を分かりやすく伝えていきますか」(肯定的回答90%以上)

・令和11年度に複式学級が発生する見込みであり、本年1～2月に地域づくり協議会や学校運営協議会で市より説明があったところである。今後、動向を捉えながら保護者や地域への説明と対応を連携して丁寧に行う。

### (2) 「ゆりのきっ子」の育成

○ 夢に向かって自己肯定感を高めながら意欲的に活動する子の育成

・出前授業や特色ある地域と協働した学習を取り入れたキャリア教育に取り組む。

・地域コーディネーターを中心に、学習ボランティアと連携し、地域人材をいかした学習の開発に取り組む。

・学級活動や縦割り班活動を通して、一人ひとりがいきいきと活動できる場を計画し、ともに活動を創り上げることの喜びや達成感を味わわせていく。

・互いの良いところを褒め合う「ポジティブカード」の取組を通して、自分や相手にポジティブな感情をもたせ、自己肯定感を高める。

### ○ 確かな学力と基本的な生活習慣を身につけた子の育成

- ・「全国学調」「みえスタ」より分析した弱み克服のために学V i v aセットや過去問などを整備し「いきいきタイム」で活用することで、基礎学力と応用力の定着を図る。
- ・「学習や読書の時間が短く、スクリーンタイムが長い」という課題解決のために、読書の時間の充実、ICTを活用した家庭学習の内容の充実、家庭読書習慣定着の取組等を進める。
- ・鈴峰中学校区の家庭学習強化週間などの共通取組を通して、校区内各小中学校との連携を図りながら、(15分×学年)の学習時間の定着に取り組む(達成率80%以上)。
- ・相手や目的を意識させ、相手の考えの良さを取り入れるなどして、自分の思いや考えを書く活動に取り組む。また、日常的な学力向上の取組として、条件にあった文や根拠を書けるようになるために、日頃から日記などの書く活動に全校で取り組み、通信などによる作品紹介により文に親しむようにする。
- ・コミュニケーション力の向上のために、一人ひとりが自分の考えを話すだけでなく、相手の考えをしっかりと聴く力を養うことで、相手意識・目的意識を持った主体的な伝え合いができるようにする。
- ・ICTの効果的な活用を取り入れた授業改善に取り組む。

### ○ 健全な体と心の育成

- ・自分や他の人の生命、健康、安全を大切にすることを教育の推進を図り、自らを律し、いじめや差別を許さず、その解決に向けて行動できる子の育成と集団づくりに取り組む。
- ・報告や連絡の「タイミング」を大切に、迅速に相談し方向性を共有することで、全職員が「見通し」をもって組織的に丁寧な対応ができるよう常に心掛ける。
- ・日頃から体を動かすことを意識させるために、月・金に朝のラジオ体操を行う。また、体力テストの結果から見える弱みに合わせた効果的な運動に取り組む。休み時間には「ふれあいタイム」で縦割り班活動を行い、異学年で体をつかった活動を定期的に行う。

### ○ 社会や人との繋がりを大切にしたい思いやりのある子の育成

- ・人権教育、特別支援教育の視点を重視した教育活動の推進を図り、子ども一人ひとりの状況や課題を正しく理解し、子どものよさを引き出す取組を推進する。合理的配慮が必要な児童に対する指導については、専門機関と連携し学校全体で共通理解をもって対応する。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育の基本計画に基づいた教育の充実を図る。スクールカウンセラーと連携し適切な児童理解をすすめる、日常的に児童の様子や支援方法等の情報共有を行って、不登校を生まない体制づくりに全職員で取り組む。欠席児童への家庭連絡や家庭訪問は速やかに行うことを徹底し長期欠席者「0」を目指す。「学校で友だちと仲良くしている」「学校へ行くのが楽しい」肯定的回答90%以上)
- ・丁寧な綴り方を大切にしたい児童の日記指導に取り組む、児童の背景や思い、願いを把握し、子どもたちが安心安全にいきいきと輝けるよう支援していく。
- ・保護者の子育てに対する思いや願いを把握し、懇談や家庭訪問などを通じて、学校と家庭、地域がともに良い子育てに取り組むことにつなげていく。
- ・地域のゲストティーチャーとのつながり、地域行事への参加などを通して、進んで学校や地域の活動に参加する態度を身に付けさせ、人とのつながりを大切に、思いやりのある子の育成を目指す。

### (3) 職場環境の改善、教職員の総勤務時間縮減に向けた取組の推進

- 職場環境の改善と日常的なメンタルヘルスへの配慮に取り組む
- 服務規律の理解を進めると共に、総勤務時間の縮減に取り組む
  - ・ 校長通信「ワンチーム庄内DX」などを利用し職員会議や打ち合わせ等で、個人情報管理や体罰・セクハラ防止などの危機管理についての情報共有を常に図るようにする。校務分掌表と行事計画を見直して、月80時間を超える時間外労働者の延べ人数「0」を目指す。
  - ・ 勤務時間の縮減に向けて定時退校日を月2日以上(第2・4水曜日)設定する。
  - ・ 会議資料の事前配付や所要時間の明記により簡素化・効率化に努める。留守番電話の設置やノー残業ディの実施により、働き方改革を推進する。
  - ・ ワークライフバランスを大切にされた職場風土の形成を目指す。
  - ・ 平日年休取得キャンペーンを実施し、教職員1人あたり年間2～3回の計画的年休取得を推進する。

成果指標		R6	R7
・一人当たりの月平均時間外労働	→25時間以下	(19.6)	→ 22.4時間)
・年360時間を超える時間外労働者数	→0名を目指す	(0)	→ 0名)
・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	→0名を目指す	(0)	→ 0名)
・一人当たりの年間休暇(年休・特休)取得日数	→23日以上	(21.9)	→ 22.1日)
活動指標		R5	R6
・設定した日の定時に退校できた職員の割合	→75%以上	(67.9)	→ 74.3%)
・放課後開催で60分以内に終了した会議の割合	→60%以上	(50)	→ 49.2%)